事業報告書（公開用）　　令和３年度提案型協働事業

事業名称	「実験で知る光と音の性質」体験事業
団体名・代表者	特定非営利活動法人あかりの街ひめじ　　理事　中村隆弘
協働の相手方	姫路科学館

目的	教育において実験やフィールドワークの重要性は、多様な手段がある現在でも変わることはない。実験等は、その準備、道具や設備の選択、実験等の実施、結果の予測と検証、片付けを含む後処理にも、様々な教育要素が含まれている。これらの体験から得られることは少なくない。 　私たちは今回、科学館の協力を得て、生徒が実際に装置に触れ、事象の変化や反応を見聞し、感動や興奮を体験してもらうことを企画した。光など、日常生活に関わる科学の知見を理解し、理科への興味・関心の拡大を図り、健全で感性豊かな青少年の育成を目的とする。
内容	パワーポイントで「光」について、教科書の内容にとどまらず、蓄光や蛍光現象、電磁波などその範囲を超える事象についても解説と実験（照度計で蛍光灯、自然光などの波長分布を調べる）を行う。また工作キット教材のマイクロスコープと万華鏡を作成してもらい、光の屈折、反射について体験する。
事業経過	７月　採択の通知、会員への案内。科学館および中学校との協議。 ８月　内容の詳細協議、工作試作、資材の発注。科学館と広報に関する協議。チラシ発注。 ９月　講義資料作成、工作の試作。　１０月～１１月　事業実施（２日/４コマ）及び準備。 １１月～１２月　関係者と事業の検証。　１～２月　報告書作成他とりまとめ。
事業の効果	１、姫路が「あかり」産業の屈指の集積地であること知らしめ、地元愛の醸成に寄与した。 ２、知る・見る・触れる・作るを体験し、「光・音・波」への関心を高められた。 ３、教育関係者および行政とりわけ科学館と、人的交流と関係の構築（つながり）ができた。 ４、科学館の設備、情報発信力ならびに応募者の感性の高さを知り、さまざまな可能性を発見できた。
今後の展望	今回の事業で、子供達が、光のみならず科学への関心の高さをうかがい知ることができ、このような課外プログラムを通じて子供達の能力を引き出し、伸ばしていくことは、彼らの成長に、また地域にとっても意義深い。姫路科学館が持つ、高い展示内容や知見、広報力を活用した取り組みは、極めて良質なプログラムを提供できると考えられる。その一助となるよう当法人も継続して尽力したいと考える。

【実施団体の事業総括・感想等】

全体として、所期の目的は達成できた。アンケートも、「おもしろかった」「知識を得られた」「話はよくわかった」など良好であり、「おもしろくない」といった否定的な意見はなかったことからも評価できると考える。また、多面的な人脈形成も、成果と思う。
ただ感染予防のため、１回の参加人数を制限し、午後に２回の実施としたことで、時間的制約が生まれ（工作の未達成や説明を急ぐ場面）など時間配分には反省すべき点もあった。

【協働の相手となった所管課の感想等】　※実施団体は記入しないでください

　新型コロナウイルス感染症禍でのイベント開催ということで、感染予防対策を徹底するため、参加人数を 1 回あたり 10 名に制限し、4 回に分散して参加者を募集したところ、全ての回が定員超えの申込数となり、可能な範囲で 1 人でも多くの参加者を受け入れるために、会場の工作室の 3 密を避けられる最大定員と工作材料の準備を勘案して、1 日あたり 21 人を基に 42 名を抽選した。当日 1 名の病気欠席があったものの当初の定員 40 名のところ 41 名が参加した。
　どの回の参加者も、みな真剣に講義を聴き、一生懸命に工作に取り組んでいた。講師となった主に技術系企業の退職エンジニアの皆さんも、光と音と波の性質の科学的背景や技術的要点を熱く語って参加者と交流していた。